

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	聖カタリナ大学
設置者名	学校法人 聖カタリナ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人間健康福祉学部	社会福祉学科 社会福祉専攻	夜・通信		4	80	84	13	
	社会福祉学科 介護福祉専攻	夜・通信		4	94	98	13	
	人間社会学科	夜・通信		4	19	23	13	
	健康スポーツ学科	夜・通信		4	18	22	13	
	看護学科	夜・通信		3	84	87	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.catherine.ac.jp/guide/data/index.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	聖カタリナ大学
設置者名	学校法人 聖カタリナ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.catherine.ac.jp/gakuen/information/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2019. 4. 1- 2021. 3. 31	コンプライアンス
非常勤	会社役員	2019. 4. 1- 2021. 3. 31	ガバナンス・経営改善
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	聖カタリナ大学
設置者名	学校法人 聖カタリナ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)には、「授業方法」「授業形態」「開講学年・学期」「授業の概要」「到達目標」「授業時間外学習の内容と時間」「成績評価の方法」「教科書・参考図書」「アクティブラーニング要素」「ICT活用」「担当教員の実務経験と授業との関連」「履修する上での留意事項」「授業計画」を記載している。</p> <p>なお、授業計画書作成にあたり、全教員に【授業概要作成例】を配付(11月)し、到達目標や授業時間外学習に関わる情報、成績評価の方法等、具体的な記入例を示し、学生に解りやすい授業計画書作りを行っている。</p> <p>また、授業計画書は、web シラバスとして学生支援システムにより学生に公表している。本学ホームページからも閲覧でき、保護者及び広く一般への公表も行っている。</p> <p>授業計画書の作成については、前年度11月に科目担当教員に対して依頼を開始し、2月下旬～3月上旬に教務委員会において確認作業を行っている。今年度については4月1日から公表した。</p>	
授業計画書の公表方法	<p><学生への公表> 学生支援システム(ユニバーサルパスポート)</p> <p><一般への公表> 本学HP TOP→在学生の方→Web シラバス https://unipa.catherine.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学生の授業外学習を推進するため、各科目のシラバスには、「授業時間外学習」として各授業ごとに事前・事後学修の内容と相当時間が明示されている。これらの学生の自己評価は、授業評価アンケートにより科目レベルで把握され、さらに、マクロ的な学生の学習意欲の把握方法として、IR推進委員会が全学レベルの統計調査「学生の学修時間・学習行動に関する調査」を実施し、クロス集計を用いた分析を行っている。

授業科目の履修認定の基準は、授業計画書の「到達目標」及び「成績評価の方法」に示している。到達目標はディプロマ・ポリシーを踏まえて各科目担当者により有機的に設定されている。なお、学則第42条により、「秀・優・良・可」を合格とすることが定められており、各科目担当者はこの評価基準に従い、授業計画書で定めた成績評価の方法により、学修成果を査定し、厳格かつ適正に評価し単位を授与している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績による学業結果を総合的に判断する指標としてGPAを用いている。GPの全体平均は、単純計算上、5段階で2.5、4段階で2.0であるが、本学の平均値はこれに近似しており、評定が過度に甘すぎたり厳しすぎたりしていることはない。データから概観すれば、各科目において一貫した開講年次相応の適切な到達度の指標に基づき、厳正な成績判定が行えている。GPA3.5以上の学生も一定数いることから、一律に厳しすぎる科目はなく、優れた成果を修めた学生にはそれに値する成績が与えられている。これらのことから、成績評価の指標は適切に設定されていると言える。なお、個人のGPAは学生支援システム(ユニバーサルサポート)で学生本人が確認できるとともに、保護者には年間2回送付する成績通知書に記載し知らせている。また、通算GPAデータを基に作成した分布状況は、学生の修学指導や奨学金申請基準、採用判定基準、受給継続審査基準等に活用する。

成績の評価とGPAの算出方法は、「GPAに関する規程」で定めており、以下のとおりである。

【成績の評価】

秀(90~100点) GP4、優(80~89点) GP3、良(70~79点) GP2、
可(60~69点) GP1、不可(59点以下) GP0

【GPAの算出方法】

・学期GPA

$$\frac{\text{当該学期の(4} \times \text{「秀」の単位数} + 3 \times \text{「優」の単位数} + 2 \times \text{「良」の単位数} + 1 \times \text{「可」の単位数)}}{\text{当該学期の総履修登録単位数 (※)}}$$

・通算GPA

$$\frac{\text{当該学期の(4} \times \text{「秀」の単位数} + 3 \times \text{「優」の単位数} + 2 \times \text{「良」の単位数} + 1 \times \text{「可」の単位数)}}{\text{全学期の総履修登録単位数 (※)}}$$

(※) 定められた履修変更期間中に履修取消しを行った科目は除外する。

なお、GPAに関する規程は、年度の始めに学生に配付するキャンパスライフに掲載し、学生への周知を図るとともに、本学ホームページでも公表している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<学生への公表>

「GPAに関する規程」をキャンパスライフ(年度当初に学生に配付)に掲載

<一般への公表>

https://www.catherine.ac.jp/guide_syllabus/pdf/2019/daigaku01/D06_00650.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
学科、専攻の特性とその学修成果を連動した卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）を次のように定めている。

<社会福祉学科 社会福祉専攻>

1. 社会福祉に関わる基本的な構造や機能、また人間や社会について幅広い教養を身につけている。
2. 人間の尊厳を守り、さまざまな人や組織と協力して、共に生きがいのある社会の実現を目指す態度を身につけている。
3. 社会福祉の援助方法を理解し、人々の暮らしや社会問題を改善する基本的技能及びコミュニケーション能力を身につけている。

<社会福祉学科 介護福祉専攻>

1. 社会における介護福祉の役割を理解し、その基盤となる教養や倫理的態度を身につけている。
2. 尊厳の保持、自立支援の考え方をふまえ、根拠に基づいた介護実践能力を身につけている。
3. 他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解し、対人援助における課題解決能力及びコミュニケーション能力を身につけている。

<人間社会学科>

1. 社会の諸問題を理解し、その解決に必要な調査や分析の方法を身につけている。
2. 社会における自らの課題を探究し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる課題探究能力を身につけている。
3. 組織や集団において他者との良好な関係を築くために必要なコミュニケーション能力、リーダーシップ能力を身につけている。

<健康スポーツ学科>

1. 健康増進のための活動を指導できるリーダーシップ、対人コミュニケーション能力を身につけている。
2. スポーツ科学を活用した健康増進に関する知識と技術を身につけている。
3. 健康な社会づくりの実現に寄与できる社会科学に基づく知識・方法を身につけている。

<看護学科>

看護学科は、個々の学生が自立し、人に対する関心をもち、人に対する理解に努め、保健・医療・福祉に関する以下の知識および能力を得た者に学位を与える。

1. 平等に個人の人格を守り、看護の対象を理解するための知性と感性を身につけ、他者との関係を形成する能力を身につけている。
2. 疾病・障がい・災害などにより危機的状況に陥った人々の、ニーズに応じた看護を実践するための基礎的能力を身につけている。
3. 保健・医療・福祉のそれぞれの領域における看護専門職の役割を理解し、看護を実践するための基礎的能力を身につけている。
4. 保健・医療・福祉の専門職ならびに地域との連携を図り、シームレスかつ創造的な保健・医療・福祉サービスを提供するための基礎的能力を身につけている。
5. 国際的・学際的感覚を身につけ、変化する社会に順応し、看護を通して社会貢献するための基礎的能力を身につけている。
6. 個人としての成長と看護専門職としての向上を目指し、看護の実践・教育・研究における自己教育力を身につけている。

上記ディプロマ・ポリシーを踏まえて設定された各科目の履修認定の基準により厳格に単位認定が行われている。さらに、卒業の認定は、学則、履修規程及び各学科の履修細則で定めた単位を修得していることを教務委員会において精査・確認し、教授会での審議を経て学長が決定している。

また、人間健康福祉学部を設置する5種の課程は、資格・免許取得に意義のある学科・専攻となっている。したがって、各学科・専攻の学修成果のアセスメントにおいて、資格・免許取得状況の推移が、教育活動の重要な位置づけとなっている。なお、学修成果のアセスメント方法には、以下のものがある。

【学修成果のアセスメント方法】

単位修得状況、卒業生数、就職率・進学率、GPA分布、学生の学修時間及び学修行動に関する調査、学生による授業改善アンケート、学生生活満足度調査、学生による4年間の学修成果アンケート、卒業生アンケート、卒業生に関するアンケート(就職先)

以上の方法により学修成果を把握することで、ディプロマ・ポリシーに基づき卒業の認定を適切に実施している。

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p><学生への公表> 「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）」をキャンパスライフ（年度当初に学生に配付）に掲載 <一般への公表> https://www.catherine.ac.jp/about/admission.html</p>
------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	聖カタリナ大学
設置者名	学校法人 聖カタリナ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.catherine.ac.jp/gakuen/information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.catherine.ac.jp/gakuen/information/
財産目録	https://www.catherine.ac.jp/gakuen/information/
事業報告書	https://www.catherine.ac.jp/gakuen/information/
監事による監査報告(書)	https://www.catherine.ac.jp/gakuen/information/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.catherine.ac.jp/about/accredited.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.catherine.ac.jp/about/accredited.html

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間健康福祉学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.catherine.ac.jp/about/teach_purpose.html)

(概要)

<社会福祉学科 社会福祉専攻>

社会福祉学科社会福祉専攻においては、社会福祉援助技術などの援助実践に関する教育研究を行うことを通して、「保健、医療、福祉等の分野で相談援助業務を担うソーシャルワーカー」の養成を目指す。

<社会福祉学科 介護福祉専攻>

社会福祉学科介護福祉専攻においては、介護技術などの援助実践に関する教育研究を行うことを通して、「保健、医療、福祉等の分野で介護援助業務を担うケアワーカー」の養成を目指す。

<人間社会学科>

人間社会学科においては、人間と社会のより良いあり方、そしてそこに生きる社会的存在としての人間の活動や営みに関する教育研究を行うことを通して、「社会の様々な組織・集団において課題探求能力に優れ、ヒューマン・スキルを発揮しながら業務を担うことのできる人材」の養成を目指す。

<健康スポーツ学科>

健康スポーツ学科においては、人々の健康を維持・増進するための健康指導やスポーツに関する知識・技術の習得と健康な社会づくりに貢献する社会学を基礎とした教育研究を行うことを通して、健康社会の実現に寄与できる人材の養成を目指す。

<看護学科>

看護学科においては、看護実践能力を修得するための体系的な教育研究を行うことを通して、地域社会の保健・医療・福祉に貢献する豊かな教養を備えた人材の養成を目指す。

卒業の認定に関する方針

(公表方法: <https://www.catherine.ac.jp/about/admission.html>)

(概要)

<社会福祉学科 社会福祉専攻>

1. 社会福祉に関わる基本的な構造や機能、また人間や社会について幅広い教養を身につけている。
2. 人間の尊厳を守り、さまざまな人や組織と協力して、共に生きがいのある社会の実現を目指す態度を身につけている。
3. 社会福祉の援助方法を理解し、人々の暮らしや社会問題を改善する基本的技能及びコミュニケーション能力を身につけている。

<社会福祉学科 介護福祉専攻>

1. 社会における介護福祉の役割を理解し、その基盤となる教養や倫理的態度を身につけている。
2. 尊厳の保持、自立支援の考え方をふまえ、根拠に基づいた介護実践能力を身につけている。
3. 他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解し、対人援助における課題解決能力及びコミュニケーション能力を身につけている。

<人間社会学科>

1. 社会の諸問題を理解し、その解決に必要な調査や分析の方法を身につけている。
2. 社会における自らの課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる課題探求能力を身につけている。
3. 組織や集団において他者との良好な関係を築くために必要なコミュニケーション能力、リーダーシップ能力を身につけている。

<健康スポーツ学科>

1. 健康増進のための活動を指導できるリーダーシップ、対人コミュニケーション能力を身につけている。
2. スポーツ科学を活用した健康増進に関する知識と技術を身につけている。
3. 健康な社会づくりの実現に寄与できる社会科学に基づく知識・方法を身につけている。

<看護学科>

看護学科は、個々の学生が自立し、人に対する関心をもち、人に対する理解に努め、保健・医療・福祉に関する以下の知識および能力を得た者に学位を与える。

1. 平等に個人の人格を守り、看護の対象を理解するための知性と感性を身につけ、他者との関係を形成する能力を身につけている。
2. 疾病・障がい・災害などにより危機的状況に陥った人々の、ニーズに応じた看護を実践するための基礎的能力を身につけている。
3. 保健・医療・福祉のそれぞれの領域における看護専門職の役割を理解し、看護を実践するための基礎的能力を身につけている。
4. 保健・医療・福祉の専門職ならびに地域との連携を図り、シームレスかつ創造的な保健・医療・福祉サービスを提供するための基礎的能力を身につけている。
5. 国際的・学際的感覚を身につけ、変化する社会に順応し、看護を通して社会貢献するための基礎的能力を身につけている。
6. 個人としての成長と看護専門職としての向上を目指し、看護の実践・教育・研究における自己教育力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.catherine.ac.jp/about/admission.html>)

(概要)

<社会福祉学科 社会福祉専攻>

社会福祉学科は、現代社会において支援を必要とする人やその環境に働きかけていくソーシャルワーカー・ケアワーカーを養成することを目的としている。

その目的を果たすために、豊かな人間性と福祉マインドを携え、様々なコミュニティで対人援助サービスや社会活動を展開する専門職として必要な資質・能力、集団・組織でのマネジメント能力、及び福祉のまちづくりに必要な知識・技術を身につけることを重視した教育課程の編成・実施を行っている。

- 1 年次：基礎教養や社会福祉領域、経営領域における基礎的知識を学ぶ。
- 2 年次：社会福祉の理論や対人援助技術の基礎、マネジメントやビジネスの基礎、及び福祉のまちづくりの基礎について学ぶ。
- 3 年次：専門分野における知識をより深く理解するとともに、実習、演習を通してソーシャルワークにおける実践的な技術を体得し、ソーシャルワーカーに求められる価値観・倫理観を形成する。国内外の福祉のまちづくりの実践について学ぶ。
- 4 年次：社会福祉学に関連する周辺領域の知識を習得し、広い分野の専門的教養を身につける。

<社会福祉学科 介護福祉専攻>

社会福祉学科は、現代社会において支援を必要とする人やその環境に働きかけていくソーシャルワーカー・ケアワーカーを養成することを目的としている。

その目的を果たすために、豊かな人間性と福祉マインドを携え、様々なコミュニティで対人援助サービスや社会活動を展開する専門職として必要な資質・能力、集団・組織でのマネジメント能力、及び福祉のまちづくりに必要な知識・技術を身につけることを重視した教育課程の編成・実施を行っている。

- 1 年次：基礎教養に加え、生活支援に必要な基礎的知識を学ぶ。
- 2 年次：社会福祉の理論や生活支援に関係する基本的技術、介護計画の立案の方法等につ

いて学ぶ。

3年次：実習等を通して介護過程を展開し、対象者の自己実現への支援の方法等について実践的に学ぶ。

4年次：ケアワークに関する周辺領域の知識を習得し、専門職としての幅広い教養を身につける。

<人間社会学科>

人間社会学科は、現代社会の構造と機能を学ぶことを通して、社会的な問題の発見、分析、解決ができる人材を育成することを目的としている。その目的を果たすために、経済、経営といった現代の企業社会を支える基本的な学問分野を社会学の視点から幅広く学ぶとともに、心理学、コミュニケーション学を中心に社会における人間同士のかかわり合いについても深く学ぶ教育課程の編成・実施を行っている。

1年次：社会現象の捉え方や対人的コミュニケーションの基礎など人間社会学科の基礎的知識を学ぶ。

2年次：社会現象を分析する手法を学ぶ。企業社会系科目と人間コミュニケーション系科目を自己の興味・関心にしたがって履修し、それぞれの専門知識を深める。

3年次：社会学、心理学の諸領域についての知識をより深め、調査・実験の実践的技法を身につける。

4年次：学習の集大成として自分が希望する専門領域について主体的学習を行い、課題探求能力を身につける。

<健康スポーツ学科>

健康スポーツ学科では、地域社会に暮らす人々が生きがいを持ち、心身ともに健康な生活を維持できるようスポーツ科学を活用した健康増進について学び、健やかな生活を支援する人材を育成する。

健康スポーツ学科のカリキュラムの特色は、「学科基礎科目」の上の展開科目として「健康スポーツ系科目」と「健康社会系科目」を置いていることである。

「健康スポーツ系科目」では、スポーツに関連する幅広い教養とそれに関わる幅広い指導方法を習得する科目を開講し、「健康社会系科目」では、健康的な社会のあり方を追求する科目を中心として開講する。

1年次：基礎教養に加え、健康科学と社会科学の基礎的知識を学ぶ。

2年次：ヘルスプロモーションに関わる具体的な知識・技能について学ぶ。

3年次：1、2年次で学習した健康スポーツ、健康社会に関する知識・技術を深化させる。

4年次：学習の集大成として専門性を確立する。

<看護学科>

看護学科では、豊かな教養と感性の涵養、人を理解し、人と関わり、科学的思考と確かな技術をもって看護を実践することができる看護の基礎的能力の育成に重点をおき、系統的なカリキュラムを「共通基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」の科目区分により編成している。

共通基礎科目：豊かな教養と感性を養い、自己教育力を育成していくために『大学導入科目』、『教養科目』、『保健体育』の3科目群を配置している。

専門基礎科目：看護専門職として他者との人間関係を形成する能力を養うために、『人を理解する』、『人と関わる』の2科目群を配置している。

専門科目：科学的根拠に基づいた看護実践能力を養うために、『看護の基礎を学ぶ』、『対象に応じた看護を学ぶ』、『看護の統合・発展』の3科目群を配置している。『看護の統合・発展』では、本学科の特色の1つである「地域包括ケアを担う保健師・看護師の養成」に向けて、地域包括ケアを実践している実習場所における地域連携統合実習を配置し、看

護系の全教員で実習指導ならびに支援に臨む。そして、「災害救護に貢献できる看護専門職」を養成するために、災害看護論等の必修の授業科目や日本赤十字社が認定する資格（赤十字救急法等）が取得できる選択科目を開講する。

<各科目群のねらい>

1. 共通基礎教育の『大学導入科目』では、大学における学習を進める上で必要となるスタディスキルを身につけ、生涯にわたる自己教育力を育成するための基盤となる科目を配置する。
2. 共通基礎教育の『教養科目』では、人を、豊かな教養と感性に裏付けされた見方によって捉え、理解するための科目を配置する。
3. 「専門基礎科目」の『人を理解する』では、人間の身体を構造的・機能的側面から理解し、人間の健康、病的変化やその診断と治療を学ぶための科目を配置する。
4. 「専門基礎科目」の『人と関わる』では、人間を心理的な側面から理解し、人と人との関係について学ぶ科目と、人の心理と行動変容について学ぶ科目を配置する。
5. 「専門科目」の『看護の基礎を学ぶ』では、看護とは何かを自ら考え、確かな知識と技術を身につけ、倫理的な看護を実践する力、よりよい看護を探究する力と科学的思考力を育成するための科目を配置する。
6. 「専門科目」の『対象に応じた看護を学ぶ』では、各領域の概論と並行して、「対象が生きる」、「対象が生活する」という機能的な視点で、ヘルスアセスメントを用いて、対象のニーズを的確に把握し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための理論や方法、ならびに援助技術を学ぶ科目を配置する。
7. 「専門科目」の『看護の統合・発展』では、地域で他の専門職と協働しながら看護を実践するための方法を学ぶ科目、国際的な視野を身につけるための科目を配置する。
8. 「専門科目」の『看護の統合・発展』では、「人材養成の方針」の「災害救護に貢献できる看護専門職」を養成するための知識・技術・態度を身につけるために災害看護・救護に必要な科目を配置する。
9. 対象のニーズを的確に捉え、科学的思考と確かな技術をもって看護を実践することができる看護専門職を育成するために、4年間を通して、学習レベルに応じた看護学実習を段階的に実施する。
10. 修得した知識・技術や科学的思考を統合し、問題の解決と創造的な看護を考案していく能力や姿勢を育成するために、看護研究Ⅰ・Ⅱを必修とし、個別に丁寧な指導を行う。
11. 「人材養成の方針」の「保健・医療・福祉の専門職との協働関係の重要性を認識し、チームの一員として医療に貢献できる看護専門職」の、主に保健業務を担う保健師を養成するために、選択制で保健師国家試験の受験資格を取得するための教育科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.catherine.ac.jp/about/admission.html>)

(概要)

<社会福祉学科社会福祉専攻>

【求める学生像】

1. 社会福祉分野への関心と探求心がある人
2. 現代社会における生活課題や社会問題に関心を持ち、向き合う意欲のある人
3. 社会福祉学を学び、対人援助や社会貢献をしたいという意志を有する人
4. 多様な考えを尊重することができ、協力して目標を達成する姿勢のある人

【入学前に身に付けておくことが期待される学習内容及び学習態度】

1. 高等学校で履修する、「国語」「英語」「公民」などの基礎的な知識・技能
2. 与えられたテーマについて、必要な情報を集めることができる能力
3. 自分の考えを、口頭や文章等で適切に表現できるコミュニケーション能力

4. 主体性をもってグループでの活動に参加することができる態度

<社会福祉学科介護福祉専攻>

【求める学生像】

1. 社会福祉分野への関心と探求心がある人
2. 現代社会における生活課題や社会問題に関心を持ち、向き合う意欲のある人
3. 社会福祉学を学び、対人援助や社会貢献をしたいという意志を有する人
4. 多様な考えを尊重することができ、協力して目標を達成する姿勢のある人

【入学前に身に付けておくことが期待される学習内容及び学習態度】

1. 高等学校で履修する、「国語」「英語」「公民」などの基礎的な知識・技能
2. 与えられたテーマについて、必要な情報を集めることができる能力
3. 自分の考えを、口頭や文章等で適切に表現できるコミュニケーション能力
4. 主体性をもってグループでの活動に参加することができる態度

<人間社会学科>

【求める学生像】

1. 現代社会の問題やしぐみに関心がある人
2. 企業や組織・集団の活動に関心がある人
3. 社会と人間の関係に関心がある人
4. 人間同士のコミュニケーションに関心がある人

【入学前に身に付けておくことが期待される学習内容及び学習態度】

1. 「国語」、「英語」を中心に、読むこと、書くこと、話すことおよび聞くことの基礎的な知識・技能
2. 高等学校の教科を通して、現代社会に関する疑問、問題点を持つことができる思考力
3. 主体性をもって他者と協働して学ぶ態度

<健康スポーツ学科>

【求める学生像】

1. スポーツと人々の健康に興味や関心のある人
2. 運動による健康づくりに関心がある人
3. スポーツ活動を通じた地域づくりに関心がある人
4. 健康的な社会づくりに興味や関心がある人

【入学前に身に付けておくことが期待される学習内容及び学習態度】

1. 保健体育にかかわる知識・技能
2. 積極性、責任感、協調性、公正性を有する行動
3. コミュニケーション能力とデモンストレーション能力を向上させる意欲

<看護学科>

【求める学生像】

1. 看護専門職をめざす明確な意志がある人
2. 看護を学ぶために必要な基礎学力と理解力を備えた人
3. 他人に対する関心を持ち、人道を重んじ、他者を尊重できる博愛精神の豊かな人
4. 保健・医療・福祉について広く関心がある人
5. 地域社会または国際社会への貢献をめざしている人

【入学前に身に付けておくことが期待される学習内容及び学習態度】

看護学科において「対象者を理解する」ことは非常に重要である。そのためには次のような知識・能力・関心（知的好奇心）を有していることが望まれる。

1. 「人の身体を理解する」ためには、「生物」、「物理」、「化学」の基礎的な学力を有し、人の身体に知的好奇心をもっていることが望まれる。
2. 「人と関わる」ためには、基礎的国語力を持ち、言語表現された文章の読解力、ならびに非言語的表現に対する観察力と洞察力をもっていることが望まれる。
3. 「人理解する」ためには、その背景にある社会に対する理解が不可欠である。そのためには、「現代社会」に関する知識を有し、時々刻々と変化している社会全般に対して関心をもっていることが望まれる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.catherine.ac.jp/structure>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
-	3人	-					3人
人間健康福祉学部	-	23人	8人	10人	15人	1人	57人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員			計	
0人			61人			61人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.catherine.ac.jp/structure					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD 委員会において、主に以下の取り組みを行っている。							
<ul style="list-style-type: none"> ・新任教員研修の実施 ・学内 FD 研修会の実施 ・学外研修への参加 ・公開授業の実施 ・授業改善アンケートの実施、授業改善調査の実施 ・教員研究計画書の提出 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間健康福祉学部	250人	239人	95%	1,062人	889人	82%	32人	4人
合計	250人	239人	95%	1,062人	889人	82%	32人	4人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間健康福祉 学部	130 人 (100%)	1 人 (0.8%)	110 人 (84.6%)	19 人 (14.6%)
合計	130 人 (100%)	1 人 (0.8%)	110 人 (84.6%)	19 人 (14.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (株)フジ、三浦工業(株)(株)愛媛銀行、伊予鉄道(株)、DCMダイキ(株)(株)よんやく、(株)いうら、えひめ中央農業協同組合、老人保健施設伊予ヶ丘				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
社会福祉学科	46人 (100%)	36人 (78.3%)	6人 (13.0%)	4人 (8.7%)	0人 (0%)
人間社会学科	51人 (100%)	45人 (88.2%)	2人 (3.9%)	4人 (7.8%)	0人 (0%)
健康スポーツ 学科	44人 (100%)	36人 (81.8%)	2人 (4.5%)	6人 (13.6%)	0人 (0%)
合計	141人 (100%)	117人 (83.0%)	10人 (7.1%)	14人 (9.9%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>各授業科目の「授業方法」「授業の概要」「授業計画」については、シラバスに記載している。また、シラバスは、学生にはwebシラバスとして学生支援システム（ユニバーサルパスポート）で公表している。本学ホームページからも閲覧でき、保護者及び一般への公表も行っている。</p>

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>授業科目の履修認定の基準は、授業計画書の「到達目標」及び「成績評価の方法」に示している。なお、学則第42条により「秀・優・良・可」を合格とする評価基準が定められている。</p> <p>また、卒業の認定は、学則、履修規程等で定めた単位を修得していることを教務委員会において精査・確認し、教授会での審議を経て学長が決定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間健康福祉学部	社会福祉学科	124単位	有・無	48単位
	人間社会学科	124単位	有・無	48単位
	健康スポーツ学科	124単位	有・無	48単位
	看護学科	128単位	有・無	48単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.catherine.ac.jp/guide/data/index.html		

⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.catherine.ac.jp/guide/data/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人間健康 福祉学部	社会福祉 学科	615,000 円	280,000 円	310,000 円	
	人間社会 学科	615,000 円	280,000 円	310,000 円	
	健康スポ ーツ学科	615,000 円	280,000 円	310,000 円	
	看護学科	1,000,000 円	280,000 円	500,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p><アドバイザー制度> 学生一人一人が円滑に大学生活を進めることを目的として、専任教員によるアドバイザー制度を設けている。社会福祉学科、人間社会学科、健康スポーツ学科では、1、2年次は入学時に決められた教員、3、4年次は専門演習の教員が担当する。看護学科では、1～3年次は各学年4名程度の教員が担当、4年次は専門演習の教員が担当する。なお、アドバイザーの役割としては、「履修登録科目に関する相談」や「学習の進め方に関する相談」等の修学に関することをはじめ、学生生活や進路に関すること等、学生生活全般に関する支援を行うことである。</p> <p><オフィスアワー制度> 全教員が各々に設定した曜日・時限に研究室に在室し、学生が教員とコンタクトできるオフィスアワー制度を設けている。学生には、アドバイザー以外の教員にも気軽に相談できる制度として利用されている。</p> <p><保護者との個別面談・教育懇談会> 社会福祉学科、人間社会学科、健康スポーツ学科では、アドバイザーによる保護者との個別面談を実施し、大学と家庭が連携して修学支援にあたる体制を整備している。 看護学科では、教育懇談会を開催し、保護者に対し教育内容や学生生活の説明、アドバイザーによる個別面談を実施している。本学の方針や教育内容を保護者に理解していただけると同時に、学生の家庭での学習や生活についての情報を共有できる機会として有効である。</p> <p><附属図書館：「学生の自ら学ぶ力を育成する」プロジェクト> ウェブをはじめとして、図書・雑誌・新聞など、様々な資料の特徴を知り、資料の検索・収集の方法を1年次から3年次までの3年間をかけて系統的に学んでいくプログラムを実施している。この取り組みが、大学での学びの基礎的な力の育成に繋がっている。</p> <p><表彰制度> 学生の修学意欲を向上させることを目的として、次の表彰制度を設けている。 ・学長特別表彰：学業優秀で、かつ学内行事に特に積極的に参加した当該年度の卒業生を卒業式において表彰する。 ・学長賞：スポーツ、文化活動、ボランティアにおいて本学の発展に寄与する活躍を認められた個人及び団体に対し、12月に行われる学内クリスマスにおいて表彰する。 ・後援会奨励金：学業、人物ともに優れた学生に、一層学業に励むことを奨励する目的で奨励金を給付する。 ・後援会課外活動奨励金：スポーツ、文化、社会活動等の課外活動において、特に活躍した団体、個人を奨励する目的で奨励金を給付する。</p> <p><奨学金制度> 本学独自の奨学制度として「奨学生制度」「特待生制度」「経済支援制度」という、趣旨の異なる3種類を設けている。なお、この3種類の中には様々な名称の制度があり、多くの学生の経済的サポートに</p>

繋がっている。
また、提携教育ローン「学費サポートプラン」も導入している。

<障がい学生支援>

障がいのある学生に対し教育及び学生生活における支援を行うため、障がい学生支援チームを設置し、合理的配慮の提供に努めている。なお、障がい学生支援の流れについては、年度当初に配付するキャンパスライフに掲載し学生に周知している。また、ホームページにも情報を掲載し、広く一般にも周知している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

- ・学内に就職委員会を組織し、アドバイザー教員や就職課職員は連携して学生個々の希望や適性に合った就職成就を目指して、きめ細かいサポートを行っている。
- ・1年次に自らのキャリアプランを考える機会を提供し、卒業年次まで就職ガイダンスやセミナーなど多種多様な就職支援プログラムを実施し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など社会人基礎力を養成している。
- ・インターンシップや企業見学会等を積極的に開催しており、体験することで実践力を養うとともに、各種国家資格等の対策講座も充実しており専門的な学びの修得を多面的に支援している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

- ・学生生活委員会による学生の心身の健康等を含めた学生生活全般への支援
- ・障がい学生支援チームによる身体又は精神障害を持つ学生に対する支援のあり方の構築及び実践
- ・校医による定期的な健康相談対応及び疾病発生時の対応
- ・保健室での健康相談対応及び健康診断実施
- ・カウンセラー及び精神科医による学生相談室でのメンタルヘルス相談への対応
- ・保護者に対する教員による面談（希望制）
- ・アドバイザーによる相談対応及び支援の実践
- ・教員ごとに指定曜日・時間帯を設け、アドバイザー担当でない学生からの相談に対応するオフィスアワーの設置
- ・学内寮以外の住居で生活する私費外国人留学生に向けた学生支援課員による定期的な面談の実施
- ・私費外国人留学生全員に向けたアンケートの実施

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.catherine.ac.jp/guide/data/index.html>